

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

18576

川端龍子美術振興基金事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	3	文化芸術教育の充実

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	教育費		
	項	教育総務費		
	目	教育振興費		
	大事業	教育振興事業		
	中事業	川端龍子美術振興基金事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	学校教育課	前北 博文 435-1196
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	和歌山市の美術教育の振興を図るため、和歌山市川端龍子賞及び和歌山市幼児児童生徒川端龍子賞を創設し、優秀な成績を収めた学校、個人を表彰する。		和歌山市の美術教育の振興を図る。			
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	
			幼児児童生徒川端龍子賞は①幼稚園・保育所部門②小学校低学年部門③小学校高学年部門④中学校部門⑤高校部門の各部門から選出。川端龍子賞は応募校の中からコンクール等の実績、保育・授業の取組報告等をもとに、選出。いずれも選考委員会で候補をあげ、教育委員会で決定する。	幼児児童生徒川端龍子賞は①幼稚園・保育所部門②小学校低学年部門③小学校高学年部門④中学校部門⑤高校部門の各部門から選出。川端龍子賞は応募校の中からコンクール等の実績、保育・授業の取組報告等をもとに、選出。いずれも選考委員会で候補をあげ、教育委員会で決定する。	幼児児童生徒川端龍子賞は①幼稚園・保育所部門②小学校低学年部門③小学校高学年部門④中学校部門⑤高校部門の各部門から選出。川端龍子賞は応募校の中からコンクール等の実績、保育・授業の取組報告等をもとに、選出。いずれも選考委員会で候補をあげ、教育委員会で決定する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	0	0	0	0	735	685	737	0	737	0	
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.3%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	0	0	0	0	4,810	4,810	4,887	4,887	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	4,810	4,810	4,887	4,887	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	735	0	737	0	737	0	
一般財源(税等)	0	0	0	0	0	685	0	0	0	0	
所要人数(人)	正規職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.62	0.62	0.63	0.63	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	附属機関委員報酬16千円等										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
応募者数		人	目標値			120		
			実績値			94		
			達成度(%)	%	%	78.3%	%	%
応募校数		校	目標値			25		
			実績値			24		
			達成度(%)	%	%	96%	%	%
表彰者数		人	目標値			25		
			実績値			23		
			達成度(%)	%	%	92%	%	%
表彰校数		校	目標値			1		
			実績値			2		
			達成度(%)	%	%	200%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	応募校数は横ばいであるが、様々な技法を用いたレベルの高い作品が出品されている。今後も本事業を広く周知し、図画工作・美術教育の充実を図るとともに、応募数を増やしていく。
見直し・改善内容	周知の際には、要項とともに前年の作品や表彰式の様子を掲載したチラシを作成し、同封する。